

—①挙上（前挙（挙上90°，180°）後挙外挙）②分回し（45°，90°）③軸旋（内旋，外旋）(B)一屈曲（上腕下垂，上腕挙上90°，上腕外転90°の肘屈曲）計11方向で計測部位は周径—（腕付根囲，腕囲，肘囲，手首囲，参考部位）長径（実長距離）—（上肢外側正中線，上肢内側正中線，上肢前面稜線，上肢後面稜線，各分割線）幅径（投影距離，実長距離）厚径（投影距離実長距離）の46項目，運動別343計測点について測定した。

3. 周径；腕囲の伸長率が大きく特に前面の伸び率が大きいである。（180°挙上，伸長率24.9%前面43.3%後面11.3%）長径；外側正中線は何れにも縮少を示し後面稜線は変化がはげしく腋窩内縁外縁部位は40~100%の伸縮率，幅径；上肢外側，内側と相反して伸縮するが厚径では前面の伸長が大きいである。以上上肢の各計測部位が運動により方向，量を変えている結果を報告する。

## B-85 運動による上肢寸法の変化の測定

米沢女短大 ○徳永 幾久  
                  山水 きぬ  
                  石山 和子

1. 作業被服学の指導にあたり「衣服の機構と人間との関係」の基礎資料が少ないので，上半身及び下半身の静止及び運動時の人体計測を行ない結果を資料として報告してきたが今回は，静止時と比較した運動による上肢寸法の変化の測定結果を報告する。

2. 資料は米沢女子短期大学学生40名で方法は上肢の静態及び動態の周径，長径，幅径，厚径を計測し伸縮率を比較した。運動部位は(A)肩関節(B)肘関節で，運動は(A)